

第3節 シンガポールにおける事例：ブリティッシュ・カウンシル・シンガポール (British Council Singapore) ⁴³

太田 浩

1. チーヴニング奨学金 (Chevening Scholarships) と同窓生および同窓会に関する基礎的な情報

チーヴニング奨学金 (Chevening Scholarships) は、新しい時代のリーダー育成を目的とした、イギリス政府の留学生向け国費留学生制度である。イギリス外務省 (Foreign and Commonwealth Office) の予算で運営され、イギリスの大学や企業からも財政的支援を受けている。この奨学金は次世代を担うリーダー、世論形成者、政策決定者に対し、キャリア形成の段階で1年間、イギリスの大学院留学 (ほとんどは、1年間の修士課程) の機会を提供している。1983年にイギリス外務省奨学金給付制度 (Foreign and Commonwealth Office Scholarships and Awards Scheme) として始まり、1994年に外務大臣公邸チーヴニングハウスに因んで現在の名称に変更された (Foreign and Commonwealth Office, 2011b)。当初からブリティッシュ・カウンシル (British Council) が本奨学金の事務局を担ってきたが、2012年3月31日をもって、28年間にわたるその業務を終えた。同年4月からはチーヴニング奨学金事務局 (Chevening Scholarships Secretariat) が担当となっている (Foreign and Commonwealth Office, 2012)。2012年3月末までは、ブリティッシュ・カウンシル (以下、BCとする) が本奨学金の募集や選考など実際の運営を行っていたが、シンガポールの場合、選考はBCシンガポール在シンガポール・イギリス大使館が共同で行っていた。

チーヴニング奨学金の同窓生は、全世界で40,000人を数え、シンガポールだけでも200名以上いる。現在までのところ、チーヴニング奨学金の全同窓生を対象とした同窓会は組織として確立していない。しかし、中国、香港、マレーシアなど世界各地で元奨学金受給者が自主的に同窓会を立ち上げており⁴⁴、イギリス外務省は、チーヴニング奨学金同窓会 (Chevening Associations) の立ち上げに対して、初年次1,000ポンドを上限に補助金を支給している (Foreign and Commonwealth Office, 2011a)。現在までのところ、シンガポールにはチーヴニング奨学金に特化した同窓会はなく、イギリス留学経験者全体を対象とした同窓

⁴³ 本報告書はウェブサイト上の調査に加え、2012年2月28日に行ったブリティッシュ・カウンシル・シンガポールの Kelly Koh 氏へのインタビューを基に作成した。

⁴⁴ 世界各地のチーヴニング奨学金同窓会 (Chevening Associations) のリストについては、以下のウェブサイトを参照のこと。

<http://www.fco.gov.uk/en/about-us/what-we-do/scholarships/chevening-alumni/chevening-associations/>

会であるイギリス同窓会シンガポール (The British Alumni Singapore) に含まれている。また、イギリス外務省は、チーヴニング奨学金に採用された新しい受給者 (渡航前)、イギリスに留学中の現受給者、そして同窓生 (卒業生) を対象に、彼らの交流を促進するプラットフォームとして、Facebook や LinkedIn などの SNS を活用した Chevening Community と呼ばれるオンライン・コミュニティを構築している⁴⁵。そこでは、イギリス外務省の活動や行事の広報も行っている。さらに、Chevening Conversation というブログサイトも開設しており、チーヴニング奨学金を受けた学者や同窓生が専門分野に関するエッセイを記述している⁴⁶。

イギリス同窓会シンガポール (以下、BAS とする) は、シンガポールに在住するイギリスの大学を卒業した人たちを対象とした同窓会組織であり、シンガポール政府にも登記されている。BC の教育カウンセラーだった Desmond Lauder 氏とイギリスの大学を卒業し、シンガポールに戻った 10 名の卒業生によって 1986 年に設立された。BAS は、イギリスの各大学の同窓会シンガポール支部のアンブレラ組織ともいえる⁴⁷。BAS の主な目的は、(1) シンガポールに在住するイギリスの大学の卒業生のネットワーク支援、(2) イギリスの大学への留学を希望する学生へのガイダンスの実施、(3) イギリス留学を終えて、シンガポールに帰国した新しい同窓生に対する情報や支援の提供などである。また、BAS ではイギリスに留学しているシンガポール出身の学生で最終学年時に経済的に困難な状況にある者を対象に奨学金を支給している (The British Alumni Singapore, n.d.)。

BC シンガポールのウェブサイトには、イギリスの大学の同窓会組織が持っているシンガポール支部のリストが掲載されている。また、そのサイトには、イギリスの大学にあるシンガポール人留学生会のリストも掲載されており、留学中と留学後に関係のある団体が一目でわかるようになっている⁴⁸。

2. イギリス留学経験者の同窓会組織とイギリス政府による支援の現状

シンガポールにおいて、イギリス留学経験者の同窓会は、歴史的にも大学ごとに設立されたものが基礎となっており、メンバー間および同窓会支部と大学の同窓会本部との結びつきが強い。BAS が、そのような各大学の同窓会シンガポール

⁴⁵ オンライン上の Chevening Community に関する詳細は、以下のウェブサイトを参照のこと。

<http://www.fco.gov.uk/en/about-us/what-we-do/scholarships/chevening-community/>

⁴⁶ Chevening Conversation と称するブログに関する詳細は、以下のウェブサイトを参照のこと。
<http://blogs.fco.gov.uk/cheveningconversations/>

⁴⁷ BAS は、80 のイギリスの大学と 24 のシンガポールにあるイギリスの大学の同窓会支部を代表する組織となっている。

⁴⁸ この 2 つのリストについては、以下のウェブサイトを参照のこと。

<http://www.britishcouncil.org.sg/education-uk/uk-alumni-groups-and-societies>

支部をアンブレラ組織としてまとめている。基本的に、それら同窓会支部は、各大学のシンガポール人卒業生のリーダーシップの下、アドホックに設立されたものを起源としており、また卒業生数の数によって支部の規模も異なることから、同窓会支部の活動が盛んなところと、そうでもないところの差がある。オックスフォード、ケンブリッジをはじめ、いわゆる有名大学の同窓会活動は、総じて盛んである。

イギリス政府は、世界各地にある BC とイギリスの在外公館のネットワークを通じて、各大学同窓会の海外支部および同窓生（元留学生）を支援することが文化外交政策の観点から非常に重要であると認識している。シンガポールは、英連邦の重要な国でイギリス留学経験者が多いことから、その重要性は特に高い。また、このような元留学生と同窓会組織を支援することは、イギリスの国益にかなう人材ネットワークの構築にもつながると考えられている。

3. 課題

イギリスの大学の長い伝統と歴史、そして各大学が他大学との差別化、個性化を図ってきたことにより、イギリス留学をしたものは、イギリスで学んだというより、イングランド、スコットランド、ウェールズなどの特定の大学で学んだという意識が強い。つまり、元留学生の帰属意識は、国よりも自分の留学した大学にあると言える。また、各大学の同窓会およびその支部もすでに長い歴史と伝統があり、政府系機関の干渉や介入を歓迎しない傾向もある。よって、BC が各大学の同窓会活動を支援するとしても、同窓会組織や同窓生に対して、留学フェアへの出席などイギリス留学に関する広報活動への参加を強く求めた場合、それが負担とみなされる場合も考えられる。実際、チーヴニング奨学金の元受給者に当該奨学金の広報宣伝活動への協力を依頼する場合、それはあくまでボランティア・ベースのお願いであり、決して強制的なものではないとしている。これについては、チーヴニング奨学金の同窓生から、本奨学金制度の魅力として、受給期間終了後に義務的活動が求められない点がたびたび指摘されているということである。政府の奨学金制度において、受給後に義務的な活動を課すことは、応募者数の減少や質の低下を招くと考えられている。こうした観点から、同窓会の組織化、同窓会の活動、同窓生の参加、いずれにおいてもボランティアであること的前提は崩すべきではないという認識を持っている。

BC シンガポールは、イギリス留学経験者に対して、各種のイベントを提供しているが、近年若い世代の出席が少ないことが問題視されている。若い同窓生の興味や嗜好は多様化しており、多くの参加者を集めることができるような企画を練ることは容易ではない。ビジネスや研究の最前線で活躍している同窓生にとって有益なネットワークの場を提供したいと考えているが、彼らは同時に多忙であ

り、一堂に会するには時間的制約も大きい。そのような事情を考慮して、BC は SNS の活用を推進している。若い世代にとっては、シンガポールに帰国しても、第 3 国で仕事をしていても、オンライン・コミュニティでつながっているという感覚は歓迎されるようである（政府サイドには「イギリス留学時代を懐かしむシニア世代の社交の場への支援、ということで終わらせたくない」という思いが強いようだ）。

近年、イギリス、シンガポール共に個人情報保護に対する法令や規則が強化されており、連絡先の情報を集めるだけでも困難な状況になっている。現状では、政府機関や同窓会組織がイギリス留学経験者の情報を能動的に集めることは難しく、先述の Facebook や LinkedIn などの SNS を活用して、そこに連絡先を登録してもらおうと呼びかけるような受動的アプローチにならざるを得ない。

イギリス政府の開発援助に関する方針や予算配分は大きく変わっていないが、チーヴニング奨学金については、近年大きな改革が行われ、奨学金の配分がより発展途上国にシフトするようになった。その影響でシンガポールのチーヴニング奨学金の割り当て数はかつて 10 から 15 で推移していたが、最近では 3 から 4 と大幅に減っている⁴⁹。

4. おわりに

チーヴニング奨学金は、コモンウェルス奨学金 (Commonwealth Scholarships)⁵⁰ と並んで、イギリスの重要な外交政策の一つに位置付けられている。その点から、奨学金受給者の留学終了後も、イギリス政府が継続的に彼らとの接触を図り、良好な関係を維持するべく、フォローアップに関する施策の重要性がより高まっている。元奨学生が母国、あるいは第 3 国で活躍しつつ、イギリスとの関係性を維持するような国際的な高度人材ネットワークの構築が求められているといえる。それはイギリスに経済だけでなく、外交や安全保障の上でも大きな国益をもたらすことになる。ただし、同窓会組織の運営と活動は、あくまでもボランティア・ベースで行われるものであり、同窓生一人ひとりの自主性が尊重されるべきである。よって、政府関係機関は、彼らの自主性を喚起するような工夫と知恵が必要である。そのための方策として、SNS の活用により、オンライン・コミュニティを構築することがすでに始まっている。ただし、それが有効であるかどうかを検証するには、時期尚早であろう。

⁴⁹ 日本に対するチーヴニング奨学金の割り当ても減少しており、2012 年度の募集では 2 名となっている。以下のサイトを参照のこと。

<http://www.britishcouncil.org/jp/japan-education-chevening-application.htm>

⁵⁰ コモンウェルス奨学金に関する詳細は以下のサイトを参照のこと。

<http://cscuk.dfid.gov.uk/>

チーヴニング奨学金は、留学生に対するメリット・ベースの奨学金制度であり、世界各国のリーダーを養成することを目的としている。よって、奨学金受給者の成功事例を収集し、それを内外に示すことが、イギリス国民に対する説明責任を果たすとともに、チーヴニング奨学金の魅力を高め、より質の高い応募者を獲得することにもつながる。

参考文献

- Foreign and Commonwealth Office. (2011a). *Chevening Alumni*. Retrieved from <http://www.fco.gov.uk/en/about-us/what-we-do/scholarships/chevening-alumni/>
- Foreign and Commonwealth Office. (2011b). *Chevening Scholarships*. Retrieved from <http://www.fco.gov.uk/en/about-us/what-we-do/scholarships/chevening/>
- Foreign and Commonwealth Office. (2012). *The Official Chevening Page*. Retrieved from <https://www.facebook.com/officialchevening>
- The British Alumni Singapore. (n.d.). *Welcome to British Alumni*. Retrieved from <http://www.britishalumni.org.sg/abtus.cfm>